

第 二 線 路

線路中心線の位置は道路の幅員形状及び建物等を考慮し東京驛より既成錢瓶町に至る線路中心を延長し外濠に於て一度四十一分四の交角を以て右折し更に神田區柳原河岸に於て十度五十七分四十四秒の交角を以て左折し秋葉原より上野方面に接続せしむるものとし又神田區鍛冶町附近に於て十五度三十九分の交角を以て左方に分岐し小柳町に於て更に三十四度十五分の交角にて左折し萬世橋驛既成線路に接続せしむるものとせり以上の内第一期工事として建設せる區域は麹町區錢瓶町橋終端即ち東京驛より二十九鎖六節に起り萬世橋驛構内に至る延長六十四鎖七十一節なり

線路勾配は大體に於て現在地盤の高さに準據し道路上に架すべき鐵桁最下端をして路面上十四呎以上の頭空を有せしむる如くせり其勾配は新工事起點より 1:140 勾配を以て上り龍閑橋上に於て 1:350 の上り勾配に變し千代田町より神田停車場構内を経て鍛冶町大通り橋まで水平にして夫より 1:300 の勾配を以て下り更に小柳町より 1:300 勾配を以て上り萬世橋驛現在線路に接続す軌條面の高さは新工事起點に於ては靈岸島水位零點上 29.93 呎神田驛附近水平線路に於て 39.21 呎小柳町に於て 36.70 呎萬世橋構内に於て 39.40 呎なり又全線路延長に於て七十鎖は直線六十鎖は曲線にして其最小半徑は十五鎖にて十六鎖十八鎖二十鎖及六十五鎖の五種を用ひ全線路延長を勾配及曲線に依り區別すれば左の如し但し勾配は中心線延長に依り區別し曲線は第一線第二線を各別に計算せり

勾配に依る區別

勾 配	線路延長
水 平	20.75
1:350	11.83
1:300	11.42
1:200	8.18
1:140	12.53
計	64.71

曲線に依る區別

半 徑	第 一 線	第 二 線
直 線	34.52	35.56
65.	1.93	1.92
20.	2.49	5.44
18.	7.07	3.33
16.	6.12	—
15.	12.70	18.78
計	64.83	65.03

線路の平面及び縦断面は第一圖に示すが如し

各線路の間隔は第一第二線間、第三第四線間、第五第六線間は各十三呎にして第二第三線間第四第五線間は各十四呎第一線及第六線の中心より拱橋の端に至る距離は各八呎なりとす故に直線の部に於ては拱橋の全幅員は八十三呎なり

拱橋の兩側には幅員十二呎内外の道路を設け拱下に通するの用に供す

第一期工事として施工すべき線路は東京萬世橋間に電車を運轉すべき二線なれば其幅員は第二第三線路の中央までにして二十八呎、黒門町より分岐せる線路に於ては二十九呎なりと雖とも左の區域は必要或は便宜上第一期工事として施工せり

乃ち基礎工事の内龍閑河岸より黒門町に至る間は杭打基礎にして第二期工事に屬する四線路は本線路に接続するを以て上部築造後に於ては敷地内狹隘にして三線以下の基礎杭を打つに機械の操縦に不便なるのみならず既成建造物に損害を與ふる虞あるを以て此區間の基礎工事は六線路とも全部施行せり

白旗橋南北橋臺は地質良好にして杭打工を要せされとも龍閑川に沿ひ工事中川を横斷して全部メ切を要するを以て舟運の便を圖り同時に全部を施行せり

常盤橋及大手町に於ては杭打工を要せず基礎は混凝土を築造するのみなれば第三第四線路の中央まで施工せり

外濠に架する拱橋は二線分離して築造するは不利益なるを以て基礎及び上部とも六線路全部を築造せり

第一第二鍛冶町即ち神田驛構内及び第三鍛冶町に於て第二第三線は構造上分離し難きに依り第三線路まで全部を築造せり